

消化器内科

前期研修終了者を対象として、当院では、日本消化器病学会専門医カリキュラム・ガイドラインに従い、消化器病診療における技術・知識を習得し消化器疾患を専門とするすぐれた医師を養成するとともに、患者さんとも良好な信頼関係を築き、かつ適切な診療行為ができるように研修する。

● スタッフ

医師名	役職	学会専門医・認定医
村山 洋子	消化器科部長 栄養管理室部長	日本内科学会【指導医】【認定医】 日本消化器病学会【指導医】【専門医】 日本消化器内視鏡学会【指導医】【専門医】 日本消化管学会【胃腸科認定医】 日本医師会【認定産業医】 日本がん治療認定医機構【がん治療認定医】
佐治 雪子	医長	日本内科学会【認定医】 日本消化器病学会【専門医】 日本肝臓学会【専門医】 日本医師会【認定産業医】
堀木 優志	副医長	日本内科学会【認定医】 日本消化器内視鏡学会【専門医】
荒木 浩士	副医長	日本内科学会【認定医】 日本消化器病学会【専門医】
佐野村 珠奈	医員	日本内科学会【認定医】 日本消化器病学会【専門医】
岩崎 竜一郎	専攻医	日本内科学会会員 日本消化器病学会会員
山口 典高	専攻医	日本内科学会会員 日本消化器病学会会員
三浦 由雄	専攻医	日本内科学会会員 日本消化器病学会会員

● 指導施設

- 日本消化器病学会専門医制度認定施設(指導医1名、専門医4名)
- 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設(指導医1名、専門医2名)
- 日本肝臓学会専門医制度認定施設(専門医1名)
- 日本超音波医学会超音波専門医研修施設(指導医1名)

● 検査業務（消化器内科）

検査	月	火	水	木	金
上部内視鏡 (内視鏡的治療を含む) AM	○	○	○	○	○
下部内視鏡 (内視鏡的治療を含む) (AM)PM	○	○	○	○	
腹部超音波 AM	○	○	○	○	○
ERCP PM	○	○		○	△
エコー下肝生検、RFA・PEIT PM		○			

ERCP: 内視鏡的逆行性膵胆管造影 RFA: ラジオ波焼灼術 PEIT: 経皮的エタノール注入術

● 診療内容

平成21年度検査数

消化管	
●上部内視鏡検査	2,821 件
経鼻内視鏡	432 件
食道静脈瘤治療(硬化療法および結紮療法)	37 件
上部消化管異物除去術	3 件
食道狭窄治療	2 件
上部消化管内視鏡的粘膜切除術(EMR)・ポリペクトミー	30 件
アルゴンプラズマ凝固療法 上部消化管止血術	30 件
PEG 造設術	7 件
●下部内視鏡検査	1,701 件
ポリペクトミー	402 件
●肝胆膵	
腹部エコー	2,432 件
腹部造影エコー	79 件
肝臓: 肝生検、肝癌療法 (RFA: ラジオ波焼灼療法)	70 件
●胆道・膵疾患内視鏡的検査・治療	101 件
内視鏡的逆行性胆管膵管造影検査	
内視鏡的逆行胆管ドレナージ術	
総胆管結石除去術(結石破碎術など)	
内視鏡的経鼻胆管ドレナージ術	

● **研修一般目標**

1. 消化器内科医に求められる基本的な診療知識・手技を習得する。
的確な診断・検査計画・治療の立案、医師と患者間の良好な関係、インフォームドコンセント、医療事故防止の知識の取得
2. 高頻度、緊急を要する消化器疾患、および悪性疾患を多数経験し、診断、治療のための諸検査の習得および治療処置（内視鏡、内視鏡処置・治療、腹部超音波、肝生検、その他種々の画像診断）を理解し、順次実践を積み、一般内科学と共に消化器内科学の知識、理解を深め病態把握能力を養う。
3. 日本内科学会・認定内科医/専門医、日本消化器病学会・専門医、日本消化器内視鏡学会・専門医、日本肝臓学会・専門医、日本超音波医学会・専門医の習得を目指す。

○ 研修は、消化器病学会専門医とペアになって患者さんの検査及び治療にあたるシステムとなっている。専門医の指導のもと、病棟では消化器病患者の主治医を担当する。さらに、週1回の消化器カンファレンスによって、受け持ち患者の病態の理解を深めてもらうとともに、治療方針について討議する。抄読会、画像・症例カンファレンスは毎週おこなっている。

○ 学会活動は盛んであり、過去2年間の国際・国内学会での発表総数は約40題、発表論文は和文・英文併せて約6編である。

○ 国内留学、海外留学考慮(3年の研修を希望する場合)

● **週間スケジュール**

	月	火	水	木	金
AM (8:00)					全科合同 救急カンファ
PM (5:30)		カルテ回診 内視鏡カンファ	内科医局会	英文 抄読会	消化器 クルズス (抄読会)

消化器クルズスでは、消化器疾患（一般内科疾患も含め）についての理解を深めてもらうために指導医のもと定期的に行っている。また、専攻医も発表する機会が与えられる。

【H21年度に行った項目】

- 1) 急性腹症、2) 急性腹症のUS、3) 急性腹症のCT、4) 輸液・検査所見・読み方、5) アニオンギャップについて、6) 上部内視鏡写真の撮り方、7) 経鼻内視鏡検査、8) 腹部エコーの読み方、9) 食道・胃静脈瘤の治療、10) 胃・十二指腸潰瘍の治療、11) ヘリコバクター・ピロリについて、12) GERD、13) 胃癌、14) 大腸癌の治療・化学療法について、15) B型肝炎の治療、16) C型肝炎の治療、17) GAVEの治療、18) PBCの治療、19) AIHの治療、20) 肝癌の治療、

21)NASH、22)急性・慢性膵炎・の治療、23)膵癌、24)GIST について、25)虚血性腸炎、26)潰瘍性大腸炎、27)クローン病、28)DM、29)慢性咳嗽、30)気管支喘息の治療、31)緩和医療

● **研修プログラム**

【専攻医1年目】

1. 内科疾患を広く経験するために、消化器内科以外に内科一般(呼吸器内科、循環器内科、血液内科、内分泌代謝内科)も各数ヶ月間ずつ研修することも可能である。
2. 消化器内科では主に入院患者の主治医となり、診療を行う。初期臨床研修で得られた知識・経験を基盤として、消化器領域の疾患に対するより専門的な診断、病態生理、治療を学ぶ。
3. 消化管造影、腹部 CT、MRI、腹部血管造影の読影法などを修得し、検査としては腹部超音波および上部消化管内視鏡検査・大腸内視鏡検査の基本手技を学ぶ。また緊急内視鏡処置、ERCP、EVL、EIS 等の内視鏡応用手技の介助を経験し習得する。

4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
GIF(抜去:40例/M) 止血助手	GIF(抜去:40例/M) 止血助手	GIF(術者:60例/M) 止血術者	GIF(術者:60例/M) 止血術者
大腸ファイバー (抜去:20例/M)	大腸ファイバー (挿入:8例/M)	大腸ファイバー (挿入:16例/M)	大腸ファイバー (挿入:20例/M)
ERCP(助手)	ERCP(助手)	ERCP(4/M)	ERCP(8/M)
腹部エコー(専門医指導)	腹部エコー(専門医指導)	腹部エコー(40例/M)	腹部エコー(40例/M)
肝生検(術者)	肝生検(術者)	肝生検(術者)	肝生検(術者)
RFA(助手)	RFA(助手)	RFA(助手)	RFA(助手)

【専攻医2年目】

1. 消化器内科の専門研修となり、主に入院患者の主治医として診療を行い・外来診療は週1～2回程度行う。ただし、必要に応じて消化器以外の入院患者の主治医にもなる。
2. 内視鏡下ポリペクトミー、EMR、ERCPをはじめとし、総胆管結石に対しての採石術(碎石術)、胆管炎や黄疸に対しての胆管ドレナージ術、膵癌、胆管癌による膵管、胆管狭窄に対してのメタリックステント留置術、肝生検、RFA、超音波ドプラー検査、造影超音波検査、EIS、EVL、または腹部血管造影などの各種 IVR の特殊検査・治療の術者として基本的事項を習得する。また悪性腫瘍の集学的治療の習得を含め、さらに臨床能力を高める。緊急内視鏡処置は術者として対応できるレベルを目指す。地方会・総会に演題を発表する(学会発表)とともに論文を書くこともめざす。

【専攻医3年目】

日常診療と、臨床研修医・若手専攻医の指導を行う。習得した手技レベルのさらなる向上を目指すと共に、消化器疾患に関わるすべての診療手技を指導医のもとに行う。

4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
GIF(術者:60例/M) 止血術者	GIF(術者:60例/M) 止血術	GIF(術者:60例/M) 止血術者	GIF(術者:60例/M) 止血術者
大腸ファイバー (挿入:20例/M)	大腸ファイバー (挿入:20例/M)	大腸ファイバー (挿入:20例/M)	大腸ファイバー (挿入:20例/M)
ERCP(8/M)	ERCP(8/M)	ERCP(8/M)	ERCP(8/M)
腹部エコー(40例/M)	腹部エコー(40例/M)	腹部エコー(40例/M)	腹部エコー(40例/M)
肝生検(術者)	肝生検(術者)	肝生検(術者)	肝生検(術者)
RFA(助手)	RFA(助手)	RFA(助手)	RFA(助手)

【専攻医2年目以降】

◆将来の展望に関して

習得可能認定医専門医:

日本内科学会認定医 / 専門医
日本消化器病学会専門医
日本消化器内視鏡学会専門医
日本肝臓学会専門医
日本超音波医学会認定超音波専門医

当院のスタッフは大阪大学(吹田市)消化器内科出身によって構成されています。診療・研究の面で、大阪大学と連携し活動しています。当施設で研修を受けられる先生方で、希望があれば研修中でも研修後でも大阪大学消化器内科に入局することができます。将来大学院への進学希望や他の関連病院で消化器内科医として臨床を継続したいといった希望に関しては、医局を介して適切な研究・臨床の場を提供することが可能です。いつでも御相談ください。

是非、当院で専攻医研修を希望される先生方がたくさん集まってきてくれることを期待しています。